

「サナギから羽化へ (5)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

蛹化直前の終齢幼虫は、よく脱出する。硬く、丈夫で、外敵に襲われにくく、安心してサナギになれる場所を探して、かなりの距離を移動することもある。先日こんなことがあった。

「センセイ、〇〇〇君のロッカーにサナギがいる！」
「このままじゃ、カバンとかでつぶされちゃうよ」



確かに男児のロッカーの天井にナミアゲハのサナギがついている。前蛹ではなく、完全に蛹化しているので、ロッカーにカバンを入れてからサナギになったのではない。恐らく夜間に蛹化して、ロッカーの主の男児も朝カバンを入れる時に気づかなかったのだろう。カバンを入れる時に潰されなかったのは、奇跡と言える。アゲハの幼虫は、縦の壁面だけでなく、完全に坂様の天井面でも蛹化することができるのだ。



私は、ロッカーの主に頼んで、羽化寸前まで、別の空ロッカーを使ってもらうことにした。このような「看板」を作って、子どもたちにも観察と注意を促しておいた。ナミアゲハの場合、気温やサナギの大きさにもよるが、サナギになってから羽化するまでに、8日～2週間程度かかる。それまでの「仮住まい」である。ロッカーの主はもちろん、多くの子どもたちが、毎日このサナギの様子を観察していた。



ロッカーにサナギを発見してから 12 日後、子どもたちはサナギの異変に気付いた。

「あ、アゲハの羽みたいのが透けて見えるよ」
「もうすぐ羽化するんだよ、きっと」

こうなると、ほぼ間違いなく当日中に羽化する。このまま羽化させても、「羽化的には」問題なかったが、私はより多くの子どもたちが観察しやすいように、急遽「サナギホルダー」を作ることにした。